

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立加唐小中学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・島留学生の受入れで児童生徒数が増え、道徳や児童生徒会活動を通して多様な感じ方や考え方に触れる機会を作ることができたことで、思いやりのある他者への関りができ、島への愛着をより高めさせることができた。 ・積極的にICTを活用することで、児童生徒が調査活動を充実させ、発表力のスキルアップを図り、他者から評価を受けることで学習に対するモチベーションを高めることができた。また、特別支援学級においても、言語習得や学習への意欲を高めさせることができた。 ・時間外在校時間は減少傾向にあった。引き続き、教職員が健康で日々の教育活動に取り組めるよう、働き方改革の推進に取り組んでいきたい。 ・来年度も食育の推進と、家庭学習の進めさせ方について、学校全体で話し合っていく必要がある。
------------------	---

2 学校教育目標	夢の実現に向かって たくましく 挑戦する 児童生徒の育成 — 郷土愛 主体性 協働 —
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>(1) 離島へき地教育の推進（基礎学力の向上と実践的コミュニケーション能力の育成）</p> <p>(2) 特別支援教育の推進（実践と研修の充実）</p> <p>(3) 地域とともにある学校づくり（体験活動を通じた郷土の魅力を発見・発信する活動）</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●基礎的・基本的な学習内容の確実な習得と思考力・判断力・表現力の育成	●県学習状況調査、CRT標準学力検査等の学力検査において、全ての学年・教科で県平均を上回るようにする。	●学力向上対策評価シートの重点取組と成果指標を全職員と共有し、実践する。 ●個に応じた授業づくりに向け、児童生徒の実態を把握するための環境を整える。							学力向上コーディネーター (牟田)	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●「周囲への思いやり」を肯定的に評価している児童生徒の割合を80%以上にする。	●道徳に関するアンケートを実施する。 ●道徳科の授業づくりに関する校内研修等を実施する。							道徳教育推進担当者 (西川)	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●いじめ防止に向けて、適切かつ組織的に対応できていると回答した教員の割合を80%以上にする。	●月に1度の生活アンケートを実施し、いじめ等の早期発見、早期対応を行う。 ●人権・同和教育に関する職員研修会を実施し、教職員の知識・理解を高める。							生徒指導担当者 (堤典)	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「友だちや先生はあなたのことを理解し、認めてくれていると思う」と回答した児童生徒を100%にする。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒を100%にする。	●各行事で、児童が主体的に計画や役割を担い、達成感を味わうことができるよう教師がサポートする。そして達成したところを称賛し評価する。 ●体験活動等の校外学習を実施し、学んだことを生かそうとする場を設定する。 ●キャリアパスポート・子どもカルテを活用する。							キャリア教育担当者 (堤典)	
●健康・体づくり	●島を愛し、地域とのつながりに積極的に活動する教育活動の推進	◎島の「歴史」や「魅力」「よさ」を探求し、島民と積極的に交流する児童生徒を90%以上にする。	◎授業や各行事(島民体育大会や文化祭、校外学習等)に積極的に参加し、自己肯定感を高める。 ◎「島の魅力やよさ」に気付かせる取組により、先人たちの努力や功績を自身の生活に生かす機会を作る。							進路指導担当者 (堤典)	
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ●「健康を考えて行動できる能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上にする。 ●「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童生徒90%以上にする。	●生活状況調査、食に関する意識調査を実施する。 ●保健だよりを定期的に発行する。							食育担当者(市丸)	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上をめざす。	●定時退勤日を設定し推進する。 ●長期休業中の年休取得を推進する。 ●夏季休業中に学校閉庁日を設定する。							管理職	
	●ワーク・ライフバランスを意識し、離島ならではの豊かな時間の過ごし方の実践	●年度初めや学期末など繁忙期を除き在職時間削減を目指す。	●定時退勤日の設定と推進。 ●繁忙期を除き、遅くとも午後6時までの退勤をめざす。							管理職	
●特別支援教育の充実	●特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	●特別支援教育の視点を入れた研修を毎月1回は取り入れる。	●個に応じた学習指導の方法を工夫、改善する。 ●各関係機関との情報共有、連携を密にする。							特別支援教育コーディネーター(前田)	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○校内研究	○個に応じた指導による基礎学力の向上と実践的コミュニケーション能力の育成	○個に応じた指導による基礎学力の向上について、肯定的な回答をした保護者、教員の割合を80%以上にする。 ○話し合い活動などで「自分の意見や考えを話している」と回答した児童生徒の割合を80%以上にする。	○校内研修において、教職員間での授業報告・改善を行う。 ○ICTの利点を生かした授業改善に取り組む。(即時フィードバック、共有、リモート会議等)							研究主任(坂井)	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
--------------------	---